

● 幕末の政治思想

全ての論の基調にある考え方

【尊王論】

天皇を尊び、中心とした国を作ろうとする考え方

外交を軸にした考え方

【攘夷論】

外国人を排除し、これまでどおり限られた国交のみ続けるという考え方。

【開国論】

外国からの国交要求を受け入れ、文化や技術を受容していくとする考え方。



幕府を維持するか、打倒するかを軸にした考え方

【佐幕論】

幕府を中心とした政治体制の維持を目指す考え方。(幕臣・会津藩など)



【公武合体論】

朝廷の権威と幕府の権力を連合・協調することで政治体制の安定化と強力化を目指す考え方。

(文久年間の福井藩、薩摩藩など)

【公議政体論】

佐幕勢力を含めた人々の公議(=協議)によって、朝廷を中心とした新しい政治体制を作る考え方。

(福井藩、土佐藩など 公議に参加する層は「諸侯」「諸侯の陪臣まで含めた武士」「諸侯から庶民まで」など、様々な考え方がある)

【倒幕論】

幕府を倒し、朝廷を中心とした新しい政治体制を作る考え方。

(攘夷派の長州藩、公武合体派の薩摩藩など、公家の一部が慶応3年頃に考えを転じて主張する)

関連イベント

記念講演会

「二の丸御殿障壁画と幕府の盛衰～狩野派が彩った歴史舞台～」

■日時／10月15日(日) 午後2時～3時半 ■場所／当館2階講堂

■講師／京都市元離宮二条城事務所 松本直子 学芸員

大政奉還掘り下げ講座 各日とも午後2時～3時

①10月21日(土) 近年発見された坂本龍馬書簡について 講師 角鹿尚計(当館館長)

②10月28日(土) 薩長から見た大政奉還 講師 山田裕輝(当館学芸員)

③11月 4日(土) 慶応3年の松平春嶽～四侯会議・大政奉還・小御所会議～ 講師 田中伸卓(当館学芸員)

ギャラリートーク(担当学芸員による展示解説)

■日時／10月14日(土)、11月3日(祝)、5日(日)、11日(土)、19日(日)、25日(土)、26日(日)
各日とも午後2時から1時間程度

「展示解説シート No.109」

平成29年10月13日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1

電話 0776-21-0489 FAX 0776-21-1489

担当：田中伸卓 印刷／小川印刷(株)

さよなら、江戸幕府

— 大政奉還と幕末の二条城 —

- 催／福井市立郷土歴史博物館
- 場／企画展示室
- 会期／平成29年10月13日(金)～11月26日(日)
- 休館日／11月1日(水)、2日(木)、13日(月)、14日(火)

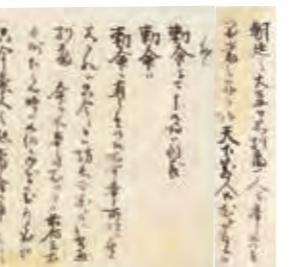
本展では、大政奉還から150年の節目の年を記念し、福井藩主であった松平春嶽、徳川慶喜、大久保利通、岩倉具視、坂本龍馬らの残した資料から紹介するとともに、幕府終焉の舞台を彩った二条城二の丸御殿の障壁画を展示します。これらを通して大政奉還・王政復古までの流れを紹介していきます。

● 大政奉還論のめばえと政権のゆくえ (文久2年～慶応2年)

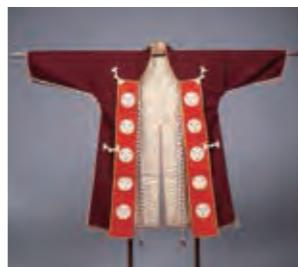
文久2年(1862)、松平春嶽(前福井藩主)は、勅命を受け入れた幕府により政事総裁職を命ぜられました。將軍後見職の徳川慶喜と共に公武合体の推進を目指しますが、攘夷勢力及び幕府内部の抵抗によって果たせず、春嶽は政事総裁職を辞任します。

また、この時期に幕臣大久保忠寛(一翁)によって大政奉還の考え方を表明されました。春嶽は自著『逸事史補』の中で大久保の大政奉還論に触れています。

政事総裁職退任後の春嶽は、有力諸侯の一人として島津久光・伊達宗城・山内容堂と共に幕府や朝廷と協議を進めますが、佐幕勢力を代表する立場となった徳川慶喜や、改革の姿勢を見せない幕府と朝廷に翻弄されます。幕府は二度にわたり長州征討を行いますが、二度目の最中に將軍徳川家茂が死去。幕府は戦果を挙げられないまま撤退し、その権威を失墜させる結果となりました。慶喜が15代將軍に就任してまもなく孝明天皇が崩御し、幕府は大きな後ろ盾を失うこととなりました。



大久保利通書簡 西郷隆盛宛
慶応元年9月23日
(国立歴史民俗博物館蔵)
[万人が納得しなければ勅命ではないという大久保の慎り]



筒袖陣羽織(東京国立博物館蔵)
Image: TNM Image Archives
[14代將軍徳川家茂の陣羽織]



二条城古写真 德川慶喜旧蔵
(徳川慶朝氏蔵)
[写真に強い関心を持つ慶喜が將軍でなければ、撮られることのなかった写真]

● 倒幕をめぐる駆け引き、大政奉還と王政復古 (慶応3年～慶応4年)

慶応3年(1867)の大きな政治課題は、長州処分の方針決定と兵庫開港勅許でした。この二つを協議するため、朝廷の命により久光・宗城・容堂・春嶽の4人が上京します。朝廷・幕府と交渉を重ねますが、またしても慶喜に主導権を握られ、思わしい結果は得られませんでした。薩摩藩はこれをきっかけとして、武力討幕に方針を転換します。

岩倉具視・大久保一蔵(利通)ら倒幕勢力は「討幕の密勅」を得て武力討幕を実行に移そうとしますが、幕府は土佐藩から大政奉還の建白を受け入れて政権を返上したため、討幕は実行されませんでした。幕府と慶喜の権力を奪いたい倒幕側、幕府の力を維持したい佐幕側、「公議」により新しい政治体制を構築したい勢力(公議政体派)もあり新しい体制のあり方は混沌とします。武力討幕への道筋をつけたのが12月9日の王政復古クーデターと、翌4年(明治元年)1月3日の「鳥羽・伏見の戦い」でした。



四老公肖像写真衝立(福井市春嶽公記念文庫 当館蔵)
[二条城での会議の後に撮られた写真]



岩倉具視伝記絵図 小御所会議之図(東京大学史料編纂所蔵)
[岩倉具視と山内容堂・松平春嶽の議論の場面]



二条城二の丸御殿大広間四の間
(障壁画は模写)



二条城二の丸御殿大広間四の間障壁画「松鷹図」
(京都市元離宮二条城事務所蔵)

● 二条城二の丸御殿の障壁画

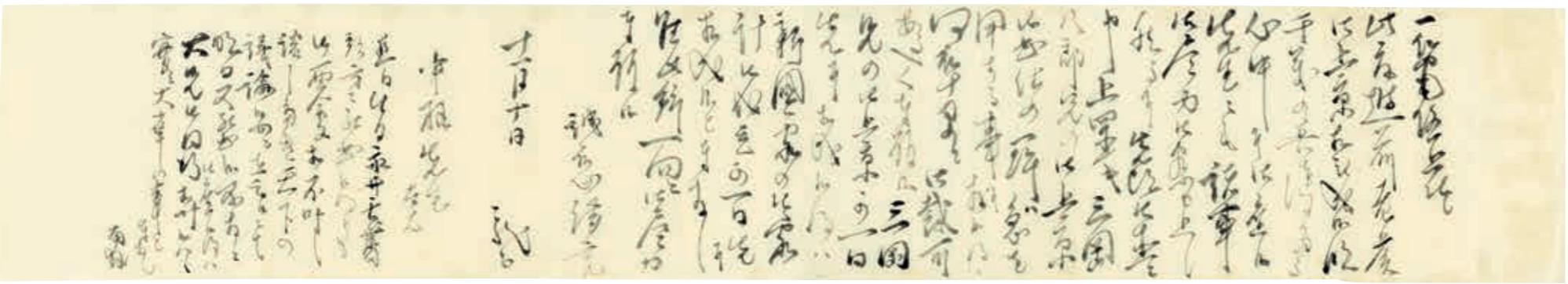
二条城は、徳川家康によって、慶長8年(1603)に徳川将軍家の京都の拠点として造営されました。その後、寛永3年(1626)に3代将軍徳川家光が、後水尾天皇の行幸にあたって、二の丸御殿の大改修を行いましたが、その際に制作された障壁画が現在まで伝えられています。

大広間は将軍と昇殿者との対面所です。金地に濃彩で松の巨木と禽鳥が描かれ、幕府の威光と繁栄が演出されています。

黒書院も対面所ですが、より限られた人々との対面に用いられました。桜を始めとした季節ごとの花鳥が描かれ、繊細で優美な空間が演出されています。



二条城二の丸御殿黒書院二の間障壁画「桜花図」
(京都市元離宮二条城事務所蔵)



坂本龍馬書簡 中根雪江宛 慶応3年11月10日(個人蔵)

● 坂本龍馬 暗殺五日前の書簡

(北陸初公開、公開期間 10月29日まで)

大政奉還後に松平春嶽が上京したことを喜び、三岡八郎(由利公正)の新政府への出仕を福井藩重臣である中根雪江に再度依頼する内容の文書。龍馬が「新国家」を模索する中で、春嶽をはじめとした福井藩を頼りにしていた様子が窺える書簡です。